

現行計画（第二次計画）

博多湾の将来像 “生きものが生まれ育つ博多湾”

博多湾においては、**水質が環境基準を達成**しているとともに、生物の生息・生育に適した水質・底質環境が成立し、多様な生物が生活史を通じて保全されています。

また、漁業等による健全な物質循環が行われ、生態系が維持されています。

さらに、市民の環境保全活動の場・市民と自然とのふれあいの場として利用されています。

計画の視点	R 6 計画目標像	評価	課題
博多湾の水質保全	博多湾全域 有機汚濁の指標のひとつである化学的酸素要求量（COD）が環境基準の達成に向け低減傾向にあるとともに、栄養塩の物質循環が生物の生息・生育に適した状態に改善されること	【COD】 流域人口が増加しているなか、下水道の普及や高度処理等により、経年的には概ね横ばい傾向にあるが、低減傾向になっていない 【窒素・リン】 平成21年度以降、環境基準を達成しているものの、西部海域ではリン不足が懸念 【赤潮】 発生件数は概ね横ばい傾向にあるが、近年は赤潮の規模が小さくなっており、プランクトン捕食生物への影響が懸念	一部 非達成 【COD】 ●さらに栄養塩類を削減することが濃度改善に寄与するか不透明 ●CODのさらなる削減はより栄養塩不足となる可能性がある ●今後もCODの低減を目指していくのか検討が必要 【窒素・リン】 ●生物多様性・生物生産性が確保された豊かな海の観点から、西部海域を中心としたリン不足への対応が必要 ●目指すべき濃度水準が不明 【赤潮】 ●珪藻類は基礎生産を支える植物プランクトンであり、生物生息・生育の観点からの検討が必要
適正な水循環および物質循環	岩礁海域 多様で豊かな海藻・海草類が生育し、その生育域が広がり、稚仔魚が育つ生息環境が保全されていること	●藻場の多様性は概ね維持されており藻場で生息する稚仔魚等も継続的に確認	達成 ●海藻・海草類の生育域の拡大に向けては、気候変動を踏まえた対応の検討が必要 ●ブルーカーボンの観点から、藻場の生育域の拡大が望まれる
生物の生活史を通じた環境保全	干潟域 底質などの干潟環境が改善され、稚エビ、稚仔魚、アサリ、カブトガニ等の干潟生物が産卵し育つ生息の場が増えていること	●森・川・海のつながりを意識した取組みや干潟の保全活動が継続的に行われている ●干潟生物の生息環境は概ね保全 ●アサリは豪雨の影響で増減を繰り返している	一部 非達成 ●森・川・海のつながりを意識した取組みや干潟の保全活動が継続して実施されるとともに、社会に浸透し、広がっていくことが求められる ●引き続き、生物の生息環境を保全していく必要がある ●アサリ資源量回復に向けた取組みが必要
水産資源の保全・回復	砂浜海岸 市民が水とふれあう親水空間や生物の生息・生育の場として、良好な環境が保全されていること	●親水空間の来客数は増加 ●水質 A 以上になっていない水浴場もあるが、全ての水浴場で海水浴に利用可能な水質は確保	達成 ●引き続き、市民の親水空間や生物の生息・生育の場として良好な環境を保全していく必要がある
親水空間の創出および市民等との共働による環境保全	浅海域 水質・底質や貧酸素状態が改善され、稚仔魚や底生生物の生息環境が保全されていること	●博多湾全体では貧酸素が継続して発生 ●底生生物は貧酸素の影響を受けて一時的な減少と回復を繰り返している ●アマモ場で多様な魚類等の生息を確認	一部 非達成 ●夏季における貧酸素の改善に向けた取組みが必要 ●引き続き、生物の生息・生育環境の保全が必要
	港海域 港湾機能を有しながら、市民がふれあう親水空間や生物の生息・生育の場が確保されていること	●アイランドシティはばたき公園の整備やエコパークゾーンの水域利用等を通して、親水空間や生物の生息・生育の場の確保が図られている	達成 ●引き続き、親水空間や生物の生息・生育の場の確保に努める必要がある

博多湾環境保全計画の改定の方向性について（案）

改定
考え方

- ① ゾーニングの考え方をなくし、博多湾全体でとらえる
- ② 市民にわかりやすい「機能」を基本的方向とし、計画目標像を設定
- ③ 第二次計画の評価・課題を踏まえ、計画目標像の達成に向けた施策を検討

次期計画

博多湾の**新**・将来像 “豊かな生きものの育みと恵みを未来につなぐ博多湾”

行政・市民・企業など主体が博多湾の環境保全に向けた役割を理解し行動することで、**生物多様性**及び**生物生産性**が確保され、博多湾の有する「支える」「育む」「恵み」「ふれあい」「つなぐ」の多面的機能が最大限に発揮された『**豊かな海**』になっています。

また、多くの市民が身近に自然を感じることができる空間として博多湾が利用されるなど、市民の**ウェルビーイング**に貢献しています。

さらに、多様な主体や世代がそれぞれの強みを活かしつながることで、豊かな博多湾を次の世代につなげていくための好循環が生まれています。

計画の視点

適正な
水質保全

生物の
生活史を
通した
環境保全

企業など
多様な主体
との連携

NP・CN
CEとの
統合的
推進

ウェル
ビーイング

基本的方向 (博多湾の多面的機能)

R16計画目標像

主な既存施策

支える		多くの生きものや市民生活を支える博多湾	豊かな海の実現に向けた適正な水質保全が行われている	●下水の高度処理 ●底質改善
			港湾機能、漁業活動、市民のふれあいの場として調和している	
育む		生きものが生まれ育つ博多湾	多様な生きものが生まれ育つ場が保全・再生・回復している	●藻場の保全・再生 ●干潟保全活動の推進 ●窪地の埋め戻し ●底質改善（再掲）
恵み		豊かな恵みをもたらす博多湾	多種多様な水産資源が持続的に漁獲されている	●アサリ等自然再生活動 ●種苗放流
ふれあい		市民が身近にふれあえる博多湾	市民の親水空間が良好な状態で保全されている	●ラブアース・クリーンアップ ●海岸域の清掃 ●アオサ回収 ●人工海浜の維持管理
つなぐ		豊かな恵み・ふれあいを未来につなぐ博多湾	森里川海のつながりを意識した取組みが進んでいる	●干潟保全活動の推進（再掲） ●ラブアース・クリーンアップ（再掲） ●環境保全創造活動の推進 ●課題解決に向けた調査・研究 ●環境保全に関する情報発信
			多様な主体がそれぞれの強みを活かしながら博多湾の環境保全活動を行っている	
			豊かな博多湾を未来につなげる取組みが進んでいる	